



4、参考図書を使ってみましょう

調べものをする時に知っておくと便利な本を**参考図書**といいます。基本的な参考図書をいくつか紹介します。

- ① **百科事典** … このあとでくわしく説明します。
- ② **辞典、事典**… 国語辞典、漢和辞典、人物を調べられる人物事典など、様々な種類があります。
- ③ **図鑑** … 決まったテーマを調べたいときに使います。写真や図が多いのが特徴です。
- ④ **年鑑** … 1年間のできごとや世の中の動きをまとめた統計などがのっています。毎年作られるので最新の情報を知るときに便利です。

調べるための本の中でも、百科事典は、調べたい事からについてわかりやすく説明されているので、おすすめです。調べたいことが決まったら、まずは百科事典を引いてみましょう。百科事典の項目を読んで、自分の調べたい事からはっきりさせると、資料を見つけやすくなります。

百科事典を使いこなしましょう

■ 百科事典の種類

- 1冊に全部の事からの説明がのっているもの
- 何冊かに分かれているもの
- 言葉が五十音順にならんでいるもの
- 算数、歴史・地理など、分野や教科で分けて説明しているもの などがあります。

- 子ども向けの百科事典 『総合百科事典ポプラディア 新訂版』(ポプラ社)
『ベスト図解百科：学習重要用語集』(学習研究社)
など。
- 大人向けの百科事典 『世界大百科事典』(平凡社)
『ブリタニカ国際大百科事典』(ティビーエス・ブリタニカ)
『日本大百科全書』(小学館)
など

■ 百科事典の仕組み

- **見出し語**は大きく太く書かれ、その下にその言葉を説明する解説文があります。**見出し語と解説文をあわせて、項目とよびます。**
- 見出し語には、**正式名称が使われています。**また、複数の言い方があるものは**予め決められた言葉(統制語)**が使われています。索引では、**正式名称や決められた言葉への案内が**されています。
- 百科事典の使い方にはそれぞれ約束ごとがある場合があります。例えば、調べていて、本文に記されている略語や記号などの意味が分からない場合は「**凡例**」(「はんれい」と読みます)を確認しましょう。その図書の編集方針や使い方、図版や記号等の読み方などの約束ごとが解説されています。



■ 百科事典の引き方

背→つめ→はしらと探す方法	索引から調べる方法
<ul style="list-style-type: none">◇ 五十音順の百科事典を使うときは、調べたい言葉の最初の文字が含まれる巻を、本の背に書かれた字を見て選びます。◇ 次に、背の反対側（小口）にある「つめ」を見て、調べたい言葉の最初の文字にあたる場所がどこかさがします。◇ 続いて、「はしら」（例：ページの右上と左上に書かれた文字）を見ながら、調べたい言葉がのっているページがどこにあるのか見ます。	<ul style="list-style-type: none">◇ 索引は、見出し語に加えてその本に載っている重要な言葉を取り出して五十音順に並べてあります。索引は、たいてい本の後ろのページにありますが、いくつもの巻がある百科事典では、索引だけをのせた巻があることもあります。◇ 索引で調べたい言葉を見つけたら、その横に書いてあるページを開いてみてください。

目的の項目を見つけたら

- ◇ まず、**解説文をよく読みます**。
- ◇ 次に、**定義を書き写します**。
- ◇ 続いて、解説文の中から**必要な部分を引用**（そのままそっくり書き写す）するか、**必要な情報を要約して書き取ります**。
- ◇ 解説文の中に**わからない言葉や関心のある事**がある場合には、それらをさらに調べます。
- ◇ 調べて書き留めたら、**どの資料で調べたか（情報源＝出典）を必ず書き留めておきます**。
出典の書き方・・・著者名、『書名』、出版社名、出版年、調べたページ
例：秋山仁・かこさとし監修、『総合百科事典ポプラディア 新訂版』、ポプラ社、2011、P.〇〇

百科事典を上手に使うヒント

- 目的の見出し語を見つけたら、その下の解説文を読みます。解説文の中にわからない言葉や、もっとくわしく調べたい言葉がでてくることもあります。その言葉もまた同じように調べてみましょう。
——百科事典によっては解説文に出てくる関連用語でその事典に収録されている言葉を色や字体を変えてわかりやすくしている場合もあります。（ポプラディアでは青字）
- 項目によっては、説明の最後に「→」などがついて、その言葉に関係する別の言葉が書いてあることもあります。こちらの見出し語も引いて項目を見てみると、よりくわしく知ることができます。
——百科事典によっては関連することをさらに詳しく調べることのできる資料への案内がされているものもあります。（ポプラディアでは「ポプラディア情報館」への案内）

「つめ」や「はしら」、索引などを使った、百科事典の引き方を覚えておくと、同じやり方で、**図鑑や国語辞典、年鑑**など、ほかの調べるための本を使うこともできます。

また、**関連語や関連資料**をたどって調べていくことを**リンク引き**といい、幅広い情報を得ていくことができます。